

そう、夢のような暮らしでした。小学校三年生のとき、それまで住んでいた駅裏通りの古くて狭くて薄汚れた借家から、郊外の高台に新しく造成された団地に引越しをすることになったのです。昭和四十年代半ばのことです。

出来立てほやほやの湯気が立ちそうな鉄筋コンクリート造四階建ての県営アパートの一室で、それは眩しいばかりの新居でした。前の住まいには無かった内風呂はもちろん、トイレは洋式の水洗等全てが目新しく、台所の蛇口には泡沫栓が付いていて空気を含んだ白い水が出てくるのが不思議で愉快でなりませんでした。

一方そんな浮かれた気分とは裏腹に、小学生だった私には引越しが決まったときから一抹の不安が心の隅に残っていました。そう、転校です。どこにあるのかもわからない小学校への学年半ばでの転入が憂鬱でたまらなかつたのです。

そしていよいよ登校初日、その不安は杞憂に終わりました。担任は笑顔の穏やかな女の先生で安心。クラスの皆も転校生が珍しかったらしく、迷い込んだ子犬を扱うように優しく接してくれました。特に嬉しかったのは下校時です。同じ方向に帰る級友たちが一緒に来てくれたのです。もう次の日から

は何の心配もなくクラスに馴染むことができました。

それから僅か二年後、その県営アパートにお別れをする日がやってきました。同じ団地内の一戸建ての分譲住宅に移り住むことになったのです。入居希望者が多数であったため抽選会が開かれ、母が当選したと満面の笑みを浮かべて喜んでいたことが昨日のこのように思い出されます。

両親ともまだ三十代で、建売平屋の安普請とは言葉新築の家が持てることは、人生これからの夫婦にとつて夢のような出来事であったに違いありません。ただ私に限れば県営アパートに住んだときほどの感動や嬉しさはありませんでした。きつと子ども心には大きなアパート住まいのほうが何かと楽しかったでしょう。

あれから半世紀の時が流れました。今は同じ場所に建て直した家に妻と二人で暮らしています。周りの住人は私の親世代の方々が殆どで、高齢化が止まりません。先日も同じ頃に居住した隣家のご主人が亡くなられ、奥さんも施設に入られて空き家になりました。主を失いひっそりと静まりかえった家は殊更寂しく目に映ります。五十年の時と想いが置き去りにされたかのような、無常の夢の跡です。

2023.5.1

1396号(夕焼け通信 創刊1993.4.23)

〒690-0823島根県松江市西川津町4276-B402 gosuitei.sakura.ne.jp/yuyake/ 編集 宮森健次

## 空き家 4 木幡智恵美

蘇る家①

我が家の隣保、回覧板を回す範囲の自治会は、私がこの家に来た四十年前には十軒を超えていた。当時は三世代家族が結構あり、娘一人だった我が家に男の子が二人生まれ、隣の家にもうちを追いかけるように三人の子どもが生まれ、我が家より一人多い七人家族でにぎわっていた。その奥には五軒あり、うち三軒は隠岐の島から来られた何かしら姻戚関係がある者同士だった。その中の一軒も三世代家族で、我が長男と同年の男の子が生まれ、年子の妹が続いた。もう二軒は年配だけの家族だった。五軒のうちの三軒を除いた一軒は、私が来て間もなく引越され、空いた家には残った一軒の家の娘さんが旦那さんと一緒に入られた。そこにも我が長男より一つ年下の女の子、二年後には男の子が生まれた。

反対隣りには、NTTの社員が住む二軒長屋があり、そこにはうちの二男より二つ下の男の子がおり、その下にまた男の子が生まれた。だから、隣保には十人を超える子どもがいたことになる。斜め向かいには小さな育児園があり、夏休みになると、園からすこし離れたところにある園庭に、ラジオ体操に集まる子どもたちでにぎわったものだ。

その隣保が、今や自治会に入っている件数は当時の半分以下の五軒だ。奥の隠岐出身のうちの二軒が引越されて空き家になり、お隣も少し高台にあるところに家を建てて引越され、空いてしまった。その後、二男さん一家が数年住まれたり、娘より一歳年下のお嬢さんが数か月住まれたりしたが、十数年前からは空き家のままになっている。隠岐出身の残された二軒のうちのもう一軒も、少し離れた中古の家に移られたのが十年くらい前。そして、残った一軒には、施設に入られた奥さんのところに毎日通う高齢の旦那さんが一人暮らしをしておられたが、転倒して入院されたのを機に、大阪に住む息子さん宅に移られた。あとの二軒のうちのお嬢さん親子四人が住んでいた家も、十数年前に旦那さんの家近くに家を建てて出られて空き家になり、奥の五軒は残すところ一軒となってしまう。というところで、うちの隣保には空き家が五軒も出来てしまったのだ。

反対側とはいえば、二軒長屋は十数年前に壊され、二軒の建売住宅が建てられた。その二軒それぞれに二世代家族が入り、細々ながら隣保は機能し続けている。



30代フリーター 衆参5つの補欠選挙は、自民の辛勝、立憲の全敗、維新の躍進という結果になった。

年金生活者 どんぶり勘定の防衛費増額、財源の裏付けの不確かな「異次元の少子化対策」といった、岸田政権の野放図な「大きな政府」路線に国民は不安を覚え、「身を切る改革」を掲げて「小さな政府」路線をとる維新に傾いたと見ることが出来る。自民に輪をかけた「大きな政府」路線の立憲は敗退するほかなかった。

維新の躍進を足もとで支えたのは徹底した「ドブ板選挙」だ。自民をルーツとするこの政党は自民顔負けの地を這う選挙で大阪を制した。補選期間中、立憲の小沢一郎が語っていた。

「選挙はデジタルじゃ勝てないよ。アナログだ。人間関係だ。あの人と会って話をした。握手をした。良い人だった。それが投票の基準になるんだ」

(4月12日朝日新聞デジタル)

生活のデジタル化は、リアルな接触への飢えを募らせる。街で候補者から

「ございます」だった。従来の役所のイメージからは考えられないような民間企業並みの応接に驚いた私は、「官僚主導」を打ち壊そうと行政に市場原理を導入した橋下市政の成果を感じた。

松本創は「維新は、保守層だけでなく、左派の一部も取り込んでいます。街や生活を良くしてくれるという実感に根ざした支持だから、イデオロギーは関係ないんです」と語る(同上)。

どの選挙だったか、1度か2度、維新に投票したことのある私はそんな左派にくくられるかもしれない。

30代 選択的夫婦別姓の導入や同性婚の制度化を公約に掲げる維新は、左派やリベラル派の一部からみれば自民党より票を投じやすいかもしれない。ハードルになるのは憲法改正を公約していることだろう。「憲法9条に自衛隊の存在を明記」を主張している。

年金 9条の変更は国民の過半が同意する可能性は低い。それは世論調査が示しているだけでなく、自民党が長期にわたって国民の支持を受けながら、改憲を

握手を求められたり、声をかけられたりすると、その飢えを満たされたような気分になる有権者も多いはずだ。「ドブ板選挙」はアナログだった時代以上に効果を発揮する可能性がある。

30代 維新はまだ伸びるのか。

年金 自民にとつての業界団体、立憲にとつての労働組合に相当する支持組織がこの党にはない。つまり「ドブ板」を踏み入手が近畿以外では少ない。野党第1党の座を立憲から奪うのは時間の問題としても、そこからさらに躍進し、政権交代をうかがうまでになるのは容易ではない。

近い将来、そこまで党勢を拡大する時があるとするれば、立憲が今回の敗北で泥船状態になり、大勢の議員が維新に逃げ込む事態になったときだろう。ジャーナリストの鮫島浩がその可能性を指摘している。

「次の衆院選で『立憲では勝てない』という危機感が広がるのは避けられない。2017年の希望の党騒動(支持率低迷にあえぐ野党第一党の民

実行に移せなかったことが物語っている。それでもこの党が改憲の旗を振り続けるのは、それが党のアイデンティティーであり、結末のよりどころになっているからだ。維新にとつての改憲もそ

進党が衆院選目前に解党して小池百合子東京都知事が旗揚げした希望の党へ合流した野党再編)が再来する可能性が高まってきた」(4月24日S A M E J I M A T I M E S)

30代 維新を「支持しない」立場からこの政党を取材し続けてきた松本創というノンフィクション作家が「大阪の多くの人には、維新が行政を握ってから街が明るくなった実感がある」と語っている(4月25日朝日新聞朝刊)。

年金 それは大阪に住む私の実感とも重なる。維新の創設者の橋下徹が大阪市長になる何年前だった。区役所の国民健康保険の担当課に苦情の電話をかけたことがある。対応したベテランらしい男性職員は話の途中で「へっへっへ」と笑い出し、苦情を本気で聞くつもりがないことをあからさまに示した。大阪市で職員の不祥事が長年にわたって続いたのもつとも思えた。

それから数年たつて、同じ部署にまた苦情電話をかけた。応答した女性職員から返ってきた言葉は「ありがとう

れに似たところがある。それは自らが保守政党であることの商標のようなものだ。保守であることは多くの国民に安心感を与える効果がある。

日本ではいま、保守派と進歩派、右派と左派を分ける指標がなくなりつつある。かつて左右を分ける指標となっていた市場経済、自衛隊、日米同盟、環境保全、弱者保護などは、一部を除いてどの勢力も認め、残るのは憲法改正くらいになっている。しかもそれを投票の物差しにする国民は少ない。改憲は選挙では決まらないし、生活に直結もしていないからだ。

30代 維新の代表が「24時間選挙のことを考え、実行できる女性は少ない」と発言したことによって松本は「維新にはマッチョ性を感じます。それに対して、女性目線で生活に寄り添う選択肢を打ち出す戦略はあるかもしれない」とも言っている。

年金 そうした弱点も修正し始めている。衆院和歌山1区補選で当選した維新の候補は女性だ。

ニュース日記 874  
中村 礼治

## 維新はなぜ勢いがあるのか